# シオノギグループの重要課題（マテリアリティ）

中期経営計画SGS2020のビジョンである「創薬型製薬企業として社会とともに成長し続ける」ことをより具現化するために、シオノギが優先的に取り組むマテリアリティ（重要課題）を特定しました。これらは「社会とともに成長し続ける」シオノギが、「創薬型製薬企業」として顧客、社会、株主、従業員の4つのステークホルダーそれぞれに価値を提供する過程において、特に重視すべき課題を抽出・整理したものです。令和元年という節目にビジネスの基本に立ち返り、マテリアリティを特定したことにより、社会と共存して成長することの重要性を改めて強く認識しています。

医薬品産業に限らず、企業を取り巻く環境が急速に変化する現代においては、ステークホルダーとの関わりから予見力を高め、ビジネスにおけるリスクを低減し、強みを活かして新たな事業機会を創出していくことが成長に向けた鍵となります。その観点から、シオノギでは、ビジネスの方向性や課題、社会からの要請等を踏まえ、ステークホルダーとの対話を繰り返し、マテリアリティを特定しています。シオノギは、最重要の課題に掲げた3つのマテリアリティに引き続き注力するとともに、ESGの諸課題への責任ある対応と強化をもって持続可能な社会への貢献と会社の成長を実現し、ステークホルダーの皆さまから将来にわたって必要とされる企業となれるよう、グループ一丸で取り組みを進めていきます。

## マテリアリティの特定プロセス

**STEP1**
**マテリアリティ候補となる社会課題の抽出**

▷ 国際的なガイドライン等の要請事項、社会的責任投資の調査内容、様々なステークホルダー・エンゲージメントを通じて社会課題を抽出

**参考にした主なガイドライン**

・持続可能な開発目標（SDGs）、GRI、ISO26000、SASBなど

**STEP2**
**抽出した社会課題の優先順位付け**

▷ 経営戦略本部（経営企画部、経理財務部、広報部）、人事総務部、CSR推進部、渉外部が中心となり、「社会にとっての重要性」と「シオノギの事業との関連性」の2軸で重要な課題を抽出・整理し、マテリアリティマップを作成

▷ シオノギの事業との関連性は中期経営計画SGS2020を踏まえて評価

**STEP3**
**ステークホルダーによるヒアリング**

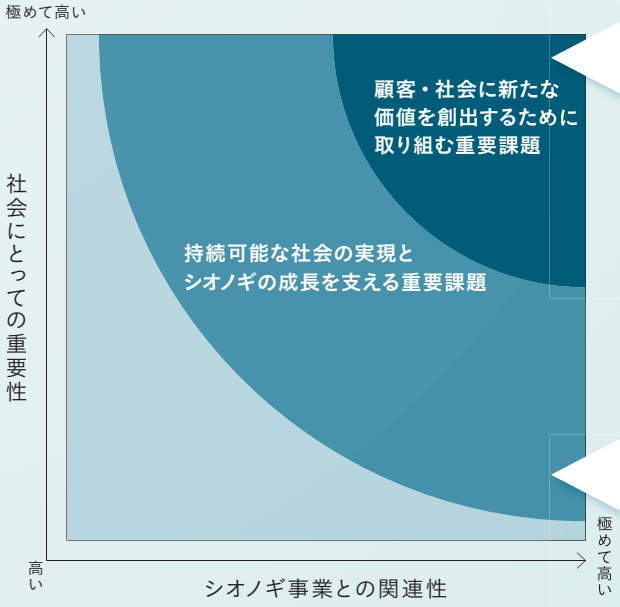
▷ 作成したマテリアリティマップについて、投資家や有識者などの社外ステークホルダーおよび社内関連部署にヒアリングを行い、妥当性を確認

**STEP4**
**マテリアリティの特定**

▷ 経営会議、取締役会において、マテリアリティの妥当性を検討した上でマテリアリティを特定

▷ 経営計画の更新、課題に対する取り組みの進捗、社会環境の変化を踏まえて定期的にマテリアリティの見直しを実施予定

## マテリアリティマップ




**イノベーションの創出**
- 医療経済性を考慮した新薬の創出
- 多様なパートナーシップの活性化

**世界を感染症の脅威から守る**
- 薬剤耐性（AMR）問題への取り組み
- 三大感染症への取り組み
- 感染症薬の適正使用の推進

**個人が生き生きとした社会創り**
- 疼痛からの解放
- 精神・神経系疾患への取り組み
- 生き生きと活躍できる環境への支援
- ヘルスケア領域での新たな価値創造

特に貢献するSDGs

- 医療アクセスの向上
- 責任ある製品・サービスの提供
- 成長を支える人材の確保
- 人権の尊重
- サプライチェーンマネジメントの強化
- 環境への配慮
- ガバナンスの強化
- コンプライアンスの遵守

## 有識者ダイアログ

マテリアリティの特定においては、社会からの期待や要請を反映するため、社内における検討やヒアリングにとどまらず、有識者やステークホルダーからの意見や評価も積極的に取り入れています。今回、特定プロセスおよび特定内容の妥当性、今後の活動推進に向けた考え方等に関して外部有識者の方々と意見交換を行い、幅広い知見に基づく貴重なご意見をいただきました。

### いただいたご意見

持続可能な社会の実現に貢献するとともに、事業活動を継続、発展していくために、マテリアリティを特定した上で事業活動を進めていくことは非常に重要であり、今回、適切なプロセスに基づいてマテリアリティを特定したことは望ましいことだと感じます。

シオノギにおいて最重要として特定されている「イノベーションの創出」、「世界を感染症の脅威から守る」、「個人が生き生きとした社会創り」の3つは、いずれも日本および世界にとって極めて重要なイシューに関わるものであり、これらをマテリアリティとしたことは評価できます。

一方で、マテリアリティは優先すべき方針を示すことだけが目的ではなく、具体的な行動に結び付いてこそ意味を成すものであるため、次の段階として、マテリアリティを具体的な活動に落とし込み、KPI等を用いて、課題解決に向けた取り組みを継続的に推進することを期待しています。今後、シオノギがマテリアリティに対応する活動を通じて社会に貢献する価値を創造していくことを強く期待しています。

神戸大学大学院
経営学研究科教授
**國部 克彦 氏**
（写真左）

公認会計士・税理士／
株式会社環境管理会計
研究所 代表取締役
**梨岡 英理子 氏**
（写真右）

### ダイアログを通じて

ダイアログでのご意見を受け、シオノギの特定したマテリアリティが、社会に価値を提供しステークホルダーの皆さまの期待に応えることができるものであることを再認識しました。また、今後マテリアリティに関わる具体的な活動やKPIを明示することで、取り組みをより一層深化させていきたいと考えています。